

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470400274	事業の開始年月日	平成11年3月25日	
		指定年月日	平成12年3月1日	
法人名	(社) 伸こう福祉会			
事業所名	クロスハート中・横浜			
所在地	(〒231-0056) 神奈川県横浜市中区若葉町3-46-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成26年10月28日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月5日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域密着型のグループホームを目指し、地域の方々と密につながりを持って活動していきたい。  
 ・法人の理念である「全てよきものを人生の先輩たち後輩たちに捧ぐ」を基本に「おしゃれに・おいしく・おつきあい」を事業所の理念として掲げ、利用者が毎日を楽しく安全に過ごしていただくとともに、職員とのコミュニケーションを大切にサービスを行なっていきたい。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年11月15日	評価機関 評価決定日	平成26年12月4日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の優れている点】

◇地域との協力信頼関係の構築

・夏祭りなどの町内会活動へ積極的に参加し、地域との信頼関係構築に努めており、事業所防災訓練への近隣住民の参加や、祭りのお神輿の立ち寄りなど、地域の一員として交流を深めている。また、地域のボランティアを毎月受入れ、小物作りやハワイアン、日舞など、利用者も一緒に楽しんでいる。

◇食を通じた、その人らしい生活の支援

・利用者の希望や体調を考慮しながら、献立表の作成から食材調達、調理まですべて事業所で行っている。利用者にも買い物や下ごしらえ、後片付けに参加してもらい、役割分担や気分転換によるその人らしい暮らしを支援している。  
 ・職員は栄養知識に関する研修を受けたり、法人の栄養士からカロリーや栄養のバランスなどについてアドバイスを受けるなど、食事の質を高める努力をしている。

## 【事業所が工夫している点】

◇利用者の思いや意向の把握と情報の共有

・職員は利用者の思いや意向をくみ取るため、「連絡ノート」や「ケアノート」、「生活の記録簿」に利用者の状況をきめ細かく記載し、職員間で情報を共有している。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	クロスハート中・横浜
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念は事務所の入り口に掲示している。</li> <li>・毎年、経営計画書をすべてのスタッフに配布、理念・方針・考えなどが記載されており、読むことで理解を深めることが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から理念に「たくさんのよきものを地域に捧ぐ」が加わり、地域との支え合い、貢献の方針が明文化されている。</li> <li>・理念や方針を掲載したスタッフ手帳を全職員が所持し、職員間で共有することで実践に繋げている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に入会し、お祭りや縁日には、利用者も参加している。</li> <li>・買物や散歩に出掛け、店の人や近所の方達と気楽に声を掛け合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会との関係も良く、地域の夏祭りや餅つきに利用者も参加している。</li> <li>・毎月、4組ほどのボランティアの訪問があり、小物作り、ハワイアン、日舞、大正琴など、利用者も一緒に楽しんでいる。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、地域（町内会等）に、高齢者施設が存在する事を認知していただくよう働きかけは行なっている。（消防訓練などに地域の方に参加していただき等）</li> </ul>		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、回数は少ないが、開催して色々な事を話し合っています。また、そこで得た意見は今後の運営にいかし、サービスへと繋げている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会長、民生委員、地域ケアプラザの職員、家族が参加して意見・要望等を聞き、運営に活かしている。</li> <li>・家族から消防訓練時の参加希望があり、次回の訓練時から声掛けする予定である。</li> </ul>	・今年度の運営推進会議は5月以降開催されていません。法人の協力も得て、定期的に開催できる体制づくりが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険の更新や区分変更時には、中区役所に出掛け担当者と面談し情報交換を行ないサービスの質の向上に取り組んでいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者は横浜市グループホーム連絡会の副幹事を務め、市や区の担当者との連携を深めている。</li> <li>・介護相談員が2名、毎月訪問して、介護相談や運動、ゲームなどのアクティビティケアを行っており、区の担当者もその状況を確認に来ている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・管理者および職員は、身体拘束を正しく理解しています。徘徊のある方も拘束せずに、納得いくまで動いて頂いています。ただし、必ず職員が付いています。	・身体拘束をしないケアを掲げ、スタッフ会議で身体拘束にあたる行為を職員に周知徹底している。 ・繁華街にあるため、ビル出入口およびエレベーターは利用者の安全確保と不審者対応のため電子錠で管理している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者研修で学びましたが、職員に対しては学ぶ機会を設けておりませんが、ケアミーティングの際その方の事例を上げ、そのことについて話し合うことはあります。また情報を共有し、注意を払い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・支援しています。区のケースワーカーと生活保護受給者の件でアドバイスを頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時や退所時等に説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営規定に明記の通り家族の意見や苦情を聞き入れ運営改善に努めている。 ・1階のエレベーター前に意見箱を設置している。また家族会や電話にて、意見や要望を聴いている。	・家族の意見や要望は、面会時や運営推進会議の際に聴き、その都度検討して運営に反映している。家族からの消火設備の稼働確認の要請にこたえて、消防署や業者に依頼して動作確認を行っている。 ・利用者の要望は日々の会話、表情や仕草からくみ取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のミーティングにて意見等を聞き、サービスの改善や職場づくりに反映している。理事長BOXを配置、スタッフの意見・質問が直接理事長に届くようになっている。	・全職員が参加する毎月のスタッフ会議のほか、管理者は常に現場で日常的に職員の意見・要望を聴いている。 ・理事長あての鍵付きのボックスがあり、理事長へ直接意見が届くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・働きかけようと努力している。楽しい職場を作ろうと努力はしています。また、毎年契約更新を行う際に一対一の面接を行っております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・入職時にOJTを設けている。法人内の研修や外部研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・地域の同業者と交流を図りつつある。 ・新人ケアマネの研修での場所提供を行なっている。 ・グループホーム連絡会の副幹事など行い、他方の方との交流を図っております。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・笑顔にて安心していただき、声掛けにより受け止める努力を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・適宜、電話連絡や行事連絡を通じ行なっている。運営推進会議などの場でも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・近隣病院への受診に努めている。 ・往診医・訪問看護・訪問歯科など違う職種とも連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・築こうと努力している。また、ミーティングなどをとらし、意見のスタッフ同士の交換も行いその方の理解にも努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・毎日買物へ出掛ける途中や散歩時に、馴染みのある店などには立ち寄り話をしたり、挨拶をしながら行なっている。	・近隣には馴染みの商店も多く、利用者と面識のある事業所出入りの米店が立ち寄りしたりしている。利用者と毎日の買い物に出かけることで、馴染みの人や場所との関係が出来、継続されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・認知症の症状には、色々あるので、利用者の理解を得た上で、席の配置換え等を時々行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他施設への移動された利用者やその家族には、定期的に伺っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・必要に応じて行なっている。事前にケース会議を開催しケアプランに落とし込み、把握して活用に役立てている。	・利用者との毎日の関わりの中で、表情や会話から思いや意向の把握に努めている。 ・利用者の思いや意向は「連絡（申し送り）ノート」や「生活の記録簿」に記載し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・必要に応じて行なっている。事前にケース会議を開催しケアプランに落とし込み、把握して活用に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・必要に応じて行なっている。事前にケース会議を開催しケアプランに落とし込み、把握して活用に役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員それぞれの客観的視点や色々な意見を聞きプラン計画をしている。（3ヵ月に一度ケース会議を行ない介護計画に反映させている。）	・利用者と家族の意向を把握し、職員の意見と日常の生活状況を加味して介護計画を作成している。 ・3か月ごとのケース会議で計画を見直しているが、利用者の状況の変化に応じて都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・生活の記録や連絡ノートにて行なっている。様子に変化があった時は、入居者個々の記録を作成し、職員や看護婦へ伝え情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・現状では、対応は困難である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアには月に1度来訪して頂き、楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・希望により掛かりつけ医を利用していた方もいるが内科医は月2回往診しており他に週1回の訪問看護と歯科往診を行なっている。	・本人・家族の了解のもと、全員が事業所の協力医をかかりつけ医としている。歯科が毎週、内科が月2回往診があるほか、看護師が毎週来訪して健康管理を行っている。協力医以外の医療機関には、家族が対応するが、必要に応じ職員も同行している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療連携により、24時間365日の医療・看護体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合は、入院先の医師と専属医の間で話し合い等をして頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ターミナルケアを実施している。これまでに2名の看取りを経験している。 ・入居時に利用者の容態が悪化した時の施設の対応について家族に説明し同意を得ている。	・重度化した場合やターミナルケアについては、入居時に重要事項説明書に基づいて家族に説明し、了解を得ている。 ・ターミナルケアは、家族、医師、看護師、担当職員間で話し合い、連携を密にして対応している。	・職員に心のケアを含めた重度化や看取りの対応に関する研修の実施が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事故が起きた場合の対応や火災報知機の操作方法などを職員に落とし込み、対応や方法を掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の協力を得て、年2回の消防訓練の実施をしている。 ・3日分の食料・飲料水の備蓄をしている。 ・今年度から、地域住民参加の消防訓練を行なった。	・消防署の協力を得て、夜間想定を含め、年に2回防災訓練を行っている。地域住民の参加・協力を得て訓練を実施している。 ・災害対策用に、3日分の食料・飲料水のほか、ヘルメット、懐中電灯、毛布等を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報の取り扱いに関しては、慎重に行なっている。	・職員は利用者の思いの把握に努め、さりげない声掛けによるトイレ誘導など、誇りを傷つけない接遇を心掛けている。 ・管理者は職員の対応によってはその場で注意し、職員間でもお互いに確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・働きかけは行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は事業所の都合を優先することなく、利用者一人ひとりが自分のペースで生活できるように支援している。意思表示ができる利用者には希望を聞いて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご家族の要望を聴き、外出時や誕生日には、おしゃれをして外出等を支援している。意思表示ができる利用者には希望を聞いて対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立は常勤者がつくっている。買物時に利用者から希望があれば、可能な範囲で応じている。出前もとることもある。能力に応じて職員と一緒に配膳・下膳を行なっている。	・利用者と共に買い物に行き、利用者の状況や好み、季節感を考慮してその日のメニューを決めている。下ごしらえや後片付けに参加する利用者もいる。 ・利用者の希望に応じた土用の鰻など、行事食や外食も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の摂取量や水分を記録している。</li> <li>・また、栄養についての研修にもスタッフが参加しています。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で口腔ケアが出来ない方には、食後に口腔ケアを行なっている。入れ歯の方には、就寝前に全て預かり、洗浄剤にて朝まで保管している。</li> </ul>		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な誘導と、様子を見ながら行なっています。尿意や便意がある方は落ち着かなくなる傾向がありますので、定期的な誘導以外にも随時声掛けし誘導して対応している。オムツはなるべく使用せず、使用してもリハビリパンツまでしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、利用者の様子を見ながら声掛けしてトイレでの排泄を支援している。</li> <li>・夜間もできるだけオムツをせず、その都度トイレやポータブルトイレに誘導している。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便秘症の方に対してはバナナや牛乳等を召し上がって頂いたり、水分摂取強化をして便通を促している。無排便の多い方は、下剤の服用を主治医と相談して行なっている。</li> </ul>		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立者には、午前・午後の好きな時に入浴してもらっている。夕食後や就寝前に入浴の希望があれば、対応している。全介助の方には、月9回入浴するよう支援している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則週2回以上入浴するよう、ひとり一人に声掛けを行っている。</li> <li>・利用者が湯船に浸かっている間は、一人で寛げるよう、職員は安全に留意しながら見守っている。</li> <li>・菖蒲湯などで季節を楽しんでもらう工夫をしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・安眠できない方には、安定剤等の処方をお願いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・管理者とケアマネが薬の管理をしています。他には訪問看護の看護婦に聞いたりして対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者には、配膳・下膳 食器洗いなど役割を持っていただき、残存能力を活かして規則正しい生活が送れるよう支援。民謡や歌・習字、ゲームなどを楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・毎日の買物には、必ず利用者と共に掛けている。 ・天気の良い日などには、外出を心掛けており、大岡川やイセザキモールに散歩に出掛けている。	・毎日の食材の買出しには利用者に声掛けして、一緒に出掛けている。落ち着かない利用者には大岡川沿いへの散歩に誘っている。 ・お花見や酉の市など、車椅子の利用者も参加できる外出機会を毎月設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人・ご家族の希望を優先しています。職員が電話をかけて電話口に出てもらいなど必要に応じて対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは明るく清潔である。利用者はTVを見たり談笑して思い思いにくつろいでいる。死角等が無いように鏡等で工夫している。	・毎日のほか、週4回の専任職員による清掃で、清潔で居心地の良い空間づくりに努めている。 ・過度の飾りつけをせず、落ち着いた家庭的雰囲気を中心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・自立の方に関しては、ご自身で席替えをしたりしてますが、要介助者につきましては、本人に確認しながら席替え等を行なっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者は各居室に使い慣れた家具やテレビなど自分の好みに応じた備品を持ち込んでいる。	・利用者は使い慣れたタンスや家具などを持ち込み、家族の写真や手作りの作品を飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫している。 ・清掃専任職員により清潔が保たれており、利用者の状況に応じた温湿度管理が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・できること、できないことを職員が把握して利用者に対して接するようにしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 クロスハート中・横浜

作成日 平成26年12月5日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		今年度は、11月までに運営推進会議の実施が2回とあまり、開催が出来なかった。	2ヶ月に1度の運営推進会議の実施	2ヶ月に1回の開催のお便りをご家族・地域の方々に毎回お送りする。また、運営推進会議の際に、次回の大まかな開催日を出席者に報告する。	一年間
2		今年度、自施設でターミナルケアを1名の方に行い、施設でご逝去された。その際にスタッフがケアについて戸惑うことがあった。ターミナルケアが、施設にまだ、浸透していないように思われる。	スタッフにターミナルケアについて周知する	スタッフに向けターミナルケア研修を行う	一年間
3		当施設は、1ユニットで職員も少ない為、火災、災害などの際、近隣住民の方の協力が必要	今の近所の関わりを継続していく	町内行事の参加、施設内の防災訓練等に町内の方に声掛け参加の要請を行っていく	一年間
4					
5					